

研究情報の公開（オプトアウト）について

臨床研究のうち、患者様への侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いる研究では、国が定めた指針において、対象となる患者さまに研究に関する情報を公開した上で、拒否の機会を保障することが必要とされています。このような手法を「オプトアウト」といいます。以下の研究への協力を希望されない場合は、お手数ですが下記までお問い合わせをお願い致します。

研究のテーマ (研究番号)	「退院時 FIM 排尿コントロール予測における CBA と FIM の有用性検証 ～ケアワーカーによる排尿自立評価の標準化に向けて～」 (承認番号：船 K2025-1)
研究責任者	南 3 階病棟 ケアワーカー 井澤知之
研究の目的 及び意義	<p>回復期リハビリテーション病棟に入院される患者の予後予測は、早期に正確な評価を行うことが重要です。特に、排尿コントロールは、患者や家族にとって在宅復帰を左右する重要な要素の一つです。</p> <p>しかし、多様な障害を有する脳血管疾患患者の場合、具体的な予後予測は困難な現状があります。当院ではケアワーカー（以下 CW）が排尿コントロールの退院時予測に携わっていますが、評価するには統一した指標や根拠となるものを用いず、これまで経験や知識に基づく評価が中心でした。2024 年度、当院 CW は「FIM 排尿コントロール予測精度向上に向けて～入院時 6 点未満の患者が 6 点以上になる方の FIM・CBA を探る～」という研究報告を行いました。</p> <p>その結果、入院時 FIM 運動下位項目と入院時 FIM 認知下位項目（社会的交流と記憶）、入院時 CBA 下位項目が、退院時 FIM 排尿コントロール 6 点以上達成に有意な影響を与えることが示唆され、この結果から、FIM に CBA を加えて評価することで予測精度が向上する可能性が示唆されました。しかし、身体機能だけでなく認知機能も関わる排尿コントロールの予測は依然として困難であり、入院中に予測を下方修正することで退院設定の変更や方針に影響を及ぼす可能性もあります。</p> <p>そこで今回の研究では、先行研究に症例数を追加し、入院時 FIM 排尿コントロール 5 点以下に影響を与える因子の特定と、CW による排尿コントロール評価の標準化に資する知見の獲得を目的とします。</p>
研究期間	2023 年 4 月 1 日 ～ 2026 年 2 月 7 日まで
研究の対象となる 患者様	2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日に船橋市立リハビリテーション病院回復期病棟に入院された脳梗塞・脳出血の患者 ※除外対象：再発患者、認知症の診断がある患者、病前に日常生活動作（ADL）が介助の患者、入院時 FIM 排尿コントロール 6 点以上の患者
使用させていただきたい情報	電子カルテ上の「新評価チャート」に集約された全ての診療情報 ただし、氏名や住所などの個人を識別するための情報を除きます。
個人情報の 取り扱い	すべての情報は匿名化し、個人を容易には特定できない形のデータにした状態で、共同研究機関に提供。提供された情報は研究機関で学術的、教育的目的で学会発表、論文等に発表することがございます。
お問い合わせ先	担当者：医療法人社団輝生会 船橋市立リハビリテーション病院 ケアワーカー 井澤知之 電話番号： 047-439-1200（代表）